



日立金属株式会社

永 沢 秀 幸*

社 名 日立金属株式会社
 設 立 昭和31年4月10日
 資 本 金 165億1千万円
 代 表 者 取締役社長 松野浩二
 従業員数 9,353名
 営業品目 (売上高 2,825億円…昭和60年度)

YSS高級特殊鋼 (ヤスキハガネ)
 高速度鋼, ダイス鋼, 工具鋼
 超耐熱・耐食合金, チタン合金, マ
 ルエージング鋼
 電子材料, 焼入帯鋼
 磨帯鋼, 磨鋼板, 磨棒鋼, 精密加工
 品, 型打鍛造品
 精密鑄造品, 超硬合金

磁性材料, 電子材料
 フェライトマグネット, 鑄造マグ
 ネット, 希土類マグネット
 フェライトコア, 単結晶, アモルファ
 ス材その他の電子材料

エレクトロニクス関連部品
 複写機・OA 機器・周辺端末機器関
 連部品
 磁気ヘッド部品, 電源その他の電子
 機器部品

印管継手, ダイアフラム式タンク
 印バルブ
 マレプルバルブ, 鑄鋼バルブ, 自動
 弁, 各種バルブ

ロール

*永沢秀幸 (Hideyuki NAGASAWA), 日立金属株式
 会社, 社長室企画部, 主任部員

鑄鉄ロール, 鑄鍛鋼ロール, 超硬ロール
 鑄鍛鋼品, 射出成形用部品, 鉄骨接合
 部品

HNM, マレプル鑄物

アルミダイカスト, アルミニウム鑄物,
 アルミホイール, フリーアクセスフロ
 ア

チェン
 マレプルチェン, ローラチェン, コ
 ンベヤチェン関連機器

機械装置
 荷役・搬送設備, 物流システム, 水
 処理・汚泥処理・焼却設備

所在地

本社 東京都千代田区丸の内2-1-2
 〒100 ☎(03)284-4511

- 他に国内に関西支店など支店, 営業所
 25カ所, 海外には生産及び販売拠点が
 29カ所.
- 工場は安来工場 (島根県—高級特殊
 鋼), 熊谷工場 (埼玉県—磁性材料)
 など10工場.

<当社の沿革>

当社は, 昭和31年に日立製作所より分離独立
 したものであるが, 事業の創始は明治43年(1910
 年)にさかのぼる. 鮎川義介氏により現在の北
 九州市で東洋で初めてマレプル (可鍛鑄鉄) の

生産と技術

製造を開始した戸畑鑄物(株)が前身である。戸畑鑄物(株)は各種ロール、管継手、高級特殊鋼の製造と、業容を拡大、昭和12年に同系の日立製作所と合併し、その鉄鋼部門として鉄鋼界に一段と地歩を固めたが、日立製作所の発展膨張に伴い昭和31年に至ってより高度の総合経営を図るため鉄鋼部門を分離独立し日立金属として新しく発足したわけである。

分立当時は、戸畑(自動車用マレブル鑄物)、深川(自動車用マレブル鑄物)、桑名(管継手)、若松(ロール)、安来(特殊鋼)の5工場であったが、その後、昭和36年に熊谷工場(アルミニウム鑄物、磁石一埼玉県)、昭和46年に熊谷機装工場(機械装置一埼玉県)、昭和50年には深川工場を栃木県真岡市に移設し真岡工場とし、昭和52年には桑名バルブ工場(バルブ一三重県)を新設、更に昭和57年には熊谷軽合金工場(自動車用アルミニウム鑄物、アルミホイール、アルミ床材一埼玉県)、電子部品工場(磁気ヘッドチップ一栃木県)を新設し現在に至っている。

<研究開発>

当社では50余年の伝統を誇り常に高級特殊鋼業界をリードしてきた冶金研究所、エレクトロニクス産業の発展を予見して昭和46年に設置した磁性材料研究所等を中心に、日立製作所の中央研究所をはじめ、日立グループの各研究所と密接な連携のもとに幅広い研究活動を進めている。

当社では、現在、研究開発5カ年計画(RD-5=昭和60~64年度)を推進しており、一層の研究設備の拡充と研究開発スタッフの倍増を企図している。主な研究施設は次の通りである。

①磁性材料研究所(埼玉県)

アモルファス金属、形状記憶合金、各種単結晶、磁気記録装置、マグネット、ニューセラミックスなど新素材、製造プロセス、電子回路技術の研究開発。

②設備開発研究所(埼玉県)

先端分野の設備開発及びFA化の推進。

③冶金研究所(鳥根県)

特殊鋼の新材質、新製品開発、新生産技術

の追究。わが国有数の特殊鋼専門研究所。近年、セラミックス、粉末冶金分野の研究も手がける。

④鑄物開発センター(北九州市)

鑄物の材質、機能分析、鑄造プロセス、鑄型等の基礎研究。

⑤配管機器開発センター

一般配管及び特殊配管分野における配管自動制御システムの開発、複合材料技術の追究。

<当社の特色>

①当社は分立以来、「和則彊」(和すれば強し)の社是のもとに「最良の会社」の具現をめざし、「量より質」を標榜して、常に高い品質の製品をもって国際分業体制の一翼を担うことを目標に事業を展開してきた。

②その結果当社では、5つの主製品がすべて世界一のシェアを占めるに至っている。

○高級工具鋼=14%、○鑄鉄ロール=10%
○管継手 =16%、○マレブル =4%
○マグネット=15%

③当社では、近年、エレクトロニクス関連製品の拡充に注力しており、その売上高に占める比率を近い将来30%、更には50%にまで高めて行く方針である。

当社は昭和30年代の住宅ブームに際し、水道、ガス関連の管継手、バルブの需要増に浴し、昭和40年代に入るや、モータリゼーションに対応して自動車用のマレブル鑄物、アルミニウム鑄物、更にエンジン関係の耐熱鋼、金型用のダイス鋼等を鋭意供給してきた。そして昭和50年代から今日まで、世界はエレクトロニクス時代へと推移しており、ここでもまた、当社はIC用のリードフレーム材(42Ni合金=特殊鋼)、各種マグネット、複写機関連部品(マグネットロールなど)、磁気ヘッドチップなど主要部品で時代の要請に答えている。

因みに昭和60年度のエレクトロニクス関連売上は約620億円で当社総売上高の22%を占めています。